

泥の感触味わって

5年生22人が
田植え
え
無農薬栽培に挑戦

板倉南小



総合的な学習の一環として

稲作に取り組んでいる板倉町立南小学校の五年生二十二人が四日、同町大高嶋の地元農家の水田で手作業による田植えを行った。児童は今後、手作りのかかしを設置したり、

手作業による田植えに挑む
児童

数回にわたる除草などを行い、無農薬有機栽培のコシヒカリづくりに挑戦する。

総合学習の時間で稲作をす

るのは、同校として初の試み。農作業体験だけでなく米の産地や品種、過去と現在の稲作の違いなども学習している。

児童は、小林信哉さん(四四)

の協力で五月中旬にもみをまいて苗を育成。一週間前に百二十五平方メートルの水田でしろかきも行った。稲作に関する疑問や質問は電子メールを活用し、担任を通じて小林さんと相談しているという。

小林さんは、化学肥料や農薬を使わない稲作に取り組んでおり、「子供たちには、技術的なことよりもイネが自然の中で育っていく状態を知ってほしい」と話している。

この日は、児童が田植えの準備をしていた時、隣の公園でゲートボールをしていたお年寄りが飛び入り参加。「三本の指でつまんで植えて」などアドバイスする光景も見られた。はだして水田に入った児童たちは、泥の感触を足の裏で確かめながら、田植えを楽しんでいた。